

白井市総合教育会議録

○会議日程

令和2年2月12日（水）

白井市役所東庁舎3階会議室302

1. 開会

2. 市長挨拶

3. 会議

(1) 白井市教育大綱について

(2) 意見交換

(3) その他

○出席委員等

教育長	井上 功
教育委員	小林 正継
教育委員	川嶋 之絵
教育委員	高倉 聡子
教育委員	齊藤 豊

○欠席委員等

なし

○出席職員

市長	笠井 喜久雄
企画政策課長	永井 康弘
企画政策課	富田 宏美
教育部長	小泉 淳一
教育部参事	鈴木 直人
教育総務課長	板橋 章
生涯学習課長	石戸 啓夫
文化センター長	石田 昌弘
書記	山本 麻奈美
書記	檜原 拓真

午後4時00分 開会

○事務局 それでは、お待たせいたしました。ただいまより平成31年度第2回白井市総合教育会議を開催いたします。本日はお忙しい中、出席いただきましてありがとうございます。

私、司会を務めさせていただきます企画財政部企画政策課の富田と申します。よろしくお願ひします。

本日の出席者は、市長、教育長、教育委員の6名となっております。

それでは、初めに笠井市長よりご挨拶をお願いいたします。

○笠井市長 皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、教育委員会議に引き続き、会議に出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

今、新型のコロナウイルスとインフルエンザが流行っていますので、市としましても、子どもたちの健康を守り、予防対策には全力で取り組んでいきたいと思っております。

以後、着座にてお話をさせていただきます。

さて、皆さんとは、昨年7月に一度、総合教育会議を行っております。そのときに、就任したばかりですけれども、自分の考えている教育観についてお話をさせていただきました。また、市の教育の現状についても共通認識を持つとともに、意見交換をさせていただいております。

皆さんには、日ごろから市の行政等、教育行政に多大なるご協力をいただきましてありがとうございます。

現在市は、総合計画後期基本計画をつくっております。この中で今、市民と意見交換会を10回ほど開催いたしました。延べにしますと200人以上の方が、意見交換会に参加をしています。その中で、うれしいことは、中学生と高校生がこのワーキンググループの中にも入っていただいて、自分たちの考えていることの意見をいただきました。今回初めて中学生、高校生の視点での意見を伺い、また、大人とのいろいろな意見交換を通して、皆さまのまちづくりの考え方というのを聞いております。

こういう市民の皆さまからいただいたいろいろな意見を踏まえて、これから後期基本計画を策定していきたいと思っております。それとあわせて、教育委員会においても、教育振興基本計画を策定していると聞いております。今回は、その自分の考え方をお話しさせていただいて、それを踏まえて、教育振興基本計画の策定を、お願いしたいと思っております。

今日は、自分がどういう方向で、これから、白井の教育を応援していきたいか、これについて率直な話をさせていただきたいと思っております。今日は傍聴者もたくさんいますので、その中で考えていることをお互い共有をしながら、進めていきたいと思っております。

皆さんには限られた時間ではありますが、効率よくいろいろな意見交換をして、よりよい白井の教育というのをみんなの力でつくっていききたいと思っておりますので、どうかよろしくをお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、これから会議に入りたいと思っております。今年度は、主に教育大綱の改訂に向けた協議を行っていきます。

本日、市長から教育大綱の素案を示させていただいておりますので、市長と教育委員の皆様で、今回は意見交換を行いたいと考えております。

そして、会議の進行につきましては、会議を円滑に進行するために、会議を主宰する笠井市長から進行役の指名をよろしくお願いしたいと思います。

○笠井市長 自分が進行して答えると非常に効率が悪いので、今回は進行役を指名させていただきたいと思っております。

井上教育長とは、常日ごろから意見交換をしておりますが、他の委員とはなかなかゆっくりお話する機会もありませんので、進行役を井上教育長にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。よ

ろしいですか。

では、井上教育長、進行役をお願いいたします。

○井上教育長 ご指名ですので、私が進行をさせていただきます。

初めに、こちらにありましたけれども、教育大綱について意見交換を進めていただき、時間がありましたら、その他の話題についても意見交換をできればと思っております。着座で進めていきます。

初めに、教育大綱の素案につきまして、笠井市長から説明をしていただきます。よろしく申し上げます。

○笠井市長 自分のほうで事務局といろいろな議論をして素案を策定しましたので、その思いを皆さんに伝えていきたいと思えます。

まず、基本理念は、お手元の表があるのですが、私が進めたいまちづくりは、行政だけではなく、いろいろな人を巻き込んで、いろいろな人の力を活用してまちづくりを進めていきたいという基本になっています。

当然、教育におきましても、学校だけではなくて、ここに書いてあります市役所、地域、それと教育委員会、家庭、あとは関係機関等、みんなで力を合わせて白井の教育を考えていきたいというのを、今回基本理念に掲げました。

従来とは違うのですが、家庭が基本だというふうに思っていますが、やはりこれから子ども達というのは地域でもいろいろな活動しますし、いろいろな人たちが子どもたちを応援していきたいと。子どもは白井の宝、さらに言うのでしたら国の宝ですので、そういう思いをもとにみんなで分野ごとに応援をしていきたいということで、基本理念を掲げさせていただきました。

その中で、学校教育面については、生きる力を育てる教育の推進、そして、生涯にわたる学習活動やスポーツ活動の支援をしていきたいと思っております。

基本理念は以上です。

次に移りたいと思えます。

基本目標について、四つの目標を掲げています。

まず、目標1、「育てます、未来を生き抜く力」、これは学校教育が主になります。具体的な内容としましては、次世代を生きる子どもたちに安全・安心な教育環境、多様な教育活動のもとで、「確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした未来を生き抜く力を育てます」ということを言っております。

この思いは、私は市長選の公約に、一番最初に「もっと子育て教育のまち」を掲げました。これから人口減少が始まって、白井市も子どもの数がどんどん減ってきます。そういう中で、子どもたちの教育環境を充実させることによって、若い人たちがこの白井に住んでいただくきっかけになればということで、一番最初に「もっと子育て教育のまち」を掲げております。

中でも、若い世代が魅力を感じるような、まずは教育レベルというものを上げていきたい。そして、教師の負担を減らすことも進めていきたい。働き方改革でもありますから、当然教育レベルを上げながら、教師の負担を減らしていきたい。では、どうしたらいいかということで、ICTを活用した教育を進めていきたいと思っております。

国は、令和5年度まで5年間で、生徒・児童1人に対してタブレットを用意するよう方向性を出しました。白井市においては、これを3年間で、児童・生徒1人に対してタブレット端末というものを

整備していきたい。なるべく早くそういう環境をつくっていききたいと思っています。このことによって、子どもたちの学習意欲や調べる力というのができるだろうと思っています。

そして、ICTを使うことによって、先生たちの板書の負担が減ってくるし、時間も短縮できるのではないかと考えています。

ただ、一方で、ICTにばかり頼りますと、子どもたちの健康被害というのも考えられますので、その辺は十分配慮しながらやっていきたい、進めていってもらいたいと思っています。

そして、次世代を担う子どもたちを学校教育においてしっかりと育て、今後、より複雑・多様化する社会を「未来を生き抜く力」を育てることとしています。

住民意識調査、これは5年に一度やっているのですが、この中で今回、政策の重要度ランキングでは、58ある市の政策の中で、「小中学校での教育指導内容」が10位にランクしておりますので、市民のニーズは高いということが、ここで伺えます。

目標2、「支えます、子どもの笑顔、家庭教育」です。具体的には、「学ぶ機会を提供し、地域で家庭教育を支える仕組みをつくり、全ての学びの基盤となる家庭教育を支えます」ということで、教育のプロではないですが、自分が思っているのは、やはり教育の原点は家庭だろうと。家庭教育をしっかりしないと、なかなか大人になっても続かないのではないかと自分では感じています。

だからといって、自分の家の家庭教育がしっかりしていたとは思っていませんが、ただ、自分の体験からやはり家庭教育というのが重要であり家族みんなで支え、こういうことが原点だと思っています。

そして、社会に適応できる人間形成は欠かせないものだと思います。しかしながら、今現在、家庭教育の変化や地域のつながりが弱くなっているのは事実で、いろいろな環境で家庭教育に時間をさくことができないのが今の実態だと思います。この部分で、ここでも行政が担う部分もありますが、地域やNPO、いろいろなボランティアの方の力をお借りをして、みんなで家庭教育を支える環境づくりをつくっていききたいと思います。

実際、白井の市民活動団体には、子どもたちに学習機会を提供し、いろいろな人たちが実際動いているので、その方々とさらに連携をしながら、いろいろな人の力をもとに家庭教育を支えていききたいと思っています。

これまでの大綱には家庭教育という特出しはなかったのですが、今回の本大綱には、これを私の思いで入れさせていただきました。

次に、目標3です。「結びます、人と地域と学ぶということ」です。これは、社会教育に入りますが、市民誰もが身近で気軽に立ち寄ることができる地域の拠点を生かして、「人と地域と学びの場を結びます」ということです。

どういうことかといいますと、市内には学びの場を提供する数多くの社会教育団体があります。学びたい人と学びを提供する人を結びつけることにより、社会教育の振興を図っていききたいと思っています。地域には、このまちの歴史やいろいろな思いを持って活動している方がたくさんおられます。そういう方とやはり一緒に手をつなぎながらやっていきたいという思いです。私は、ずっと市民活動を中心に行政経験を積んできましたので、いろいろな人の特技、特色、そういうものを地域づくりや教育にも生かしていきたいと思っています。

また、これは住民意識調査においても、充実すべき生涯学習施策では、「学習機会の充実」や「生

涯学習施設のサービスの充実」だとか、いずれも上位、2位、3位となっており、住民の方の中にも学びの場のニーズや生涯学習の場への期待は高い状況であります。

人生100年時代といわれていますので、多くの方の今までの知識・経験というものをつなげていきたいと思えます。

次に、目標4です。「応援します、みんなの学び」、これは生涯学習になりますが、「市民誰もが生涯を通して、スポーツ、文化、芸術、郷土の歴史等、自己を高める学習活動を応援します」ということで、これは市内では各種のスポーツ施設や図書館、郷土資料館、文化会館などがあり、これらの施設を有効活用して、スポーツや文化、芸術、郷土の歴史等に触れ合っただき、生涯を通して学習することで人生を豊かに生きていきたいと考えております。

人生100年時代といわれる中でキーワードは、私は、一つは健康、学ぶこと、あと働く場の提供、そして生きがいだと思っています。こういう環境を整えることによって、一人一人の人生を豊かにしていく応援をしていきたいと思っております。

以上が、私がこれから学校教育環境の応援ということで考えた内容でございます。

これについて、皆さんから、この点をもう少し深掘りで聞きたいとか、思いを確認したいとかありましたら、忌憚のないご意見等をいただきたいと思います。

後の進行については、議長の教育長にお願いします。

○井上教育長 わかりました。説明ありがとうございました。

それでは、先ほども言いましたけれども、この市長の思いが詰まった教育大綱につきまして、まず意見交換をしていきたいと思えます。策定の趣旨、対象期間、位置づけ等がありますけれども、主に基本理念、基本目標、ここのところですね。市長さんの白井市の教育にける思い、この部分について意見交換をして。まだ、これは実質的には来年度、再来年度ですね。再来年度からの出発となりますので、意見交換をする中で修正する部分はしていただいて、ということを加味して意見交換を進めていきたいと思えます。

それでは、ご意見をいただければと思えます。

○高倉委員 では、目標1、学校教育の点でお伺いします。

目標1の中にある「確かな学力」についての質問です。この「確かな学力」というのが非常に求められているというのはわかりますし、保護者のご要望も強いことかと思えます。ただ、一方で、いわゆるテストの数値だけで見ると、非常に狭い学力ということになることを懸念しています。

また、学力テストというような主要なテストが、学校現場で過度に負担になっていないかということも個人的には懸念しておりまして、市長がお考えの「確かな学力」について、どのように捉えるものなのか、お考えを聞かせてください。

○井上教育長 ありがとうございます。よろしいですか。

○笠井市長 私は、単に数値、偏差値だけで人を判断することはいかかなものかと思っています。実際、自分でも偏差値的にはかつてそんなに数値がなかった人間ですので、そういう意味からやはり評価は、数値だけではないと。その中でやはり学力以外に、人間としての思いやりだとか協調性だとかそういうものが大事であろうと思えます。

確かに数値で判断することは簡単でいいのですが、総合的に人間力というものを高めて、そういうものも評価をしていきたいと思っております。

それと、先生の負担というお話がありましたが、学力テストの取り扱いそのものは教育委員会が慎重に判断するものですが、市長の私としましては、教師の負担を減らすために、次年度予算では各学校にナンバーディスプレイと電話の自動応答機を計上しております。なるべく先生の負担というものを減らしていきたいと思っています。

以上です。

○井上教育長 よろしいですか。

○高倉委員 はい。

○笠井市長 そうですね、付け加えますと、思いやり、協調性、あと、いじめとかそういうことですよ。仲間とかそういうものが、自分の中でずっと学生時代に一つのスポーツをやってきて学んだ点ですから、こういうものもやっぱり学校現場でも、ぜひ取り入れてほしいと思っています。

以上です。

○井上教育長 私からですけれども、この前の教育委員会の来年度予算のところでも質問をいただいて、教育課題研究というところをちょっと予算を変えたんですけれども、中身も変えたんですね。

今までは、「千葉県標準学力テスト」というものをしてきたんですけれども、テストではなくて、今、民間事業者とそれについて研究を進めていて、テストではなくて、自分の学習を振り返ってやる気が生まれるような、そのような調査ができないかということで、今それを研究しているところですので、笠井市長がおっしゃった話とちょうど合うところでございます。

○笠井市長 総合的に子どもたちを判断できる環境をつくっていきなさい。子どもたちは可能性がります。勉強だけではなくて、これから大きくなって選択肢をひろげられるような、いろいろな面の評価というのをお願いしていきなさいなと思っています。

○井上教育長 では、これに関係しても結構ですし、ほかのことでも結構でございます。何かありますでしょうか。

○小林委員 その学力という点では、高校生、大学受験とかいろいろございますので、試験では私もそういう点数の試験を受けてきていないんですけれども、いわゆる「考える力」を見るテストなんていうのはできないと思うのです。でも、世の中はやっぱり上、いいところがいいという流れになっていて、あの人たちは、もう附属の小学校、中学、附属の学校へ入れてしまおうかというような、そんな考えの人もある。どうしても、世の中そういう風潮になっていると思うのですけれども、いわゆるテストにとらわれない学力をきちんと育てるというために、市長さんは特別な考えとかはありますか。

○笠井市長 難しいですよ。これからの時代はAIが、あとはいろいろな情報機器が発達してきて、今までの教育というのは、どちらかというと記憶力とかを持っていることが有利でしたが、これからは考える力、工夫、いろいろなイメージをひろげる部分ができてくると思うのですよ。

ですから、AIとかそれに負けない考える力を養うためには、情報は今ではもう全部ITで入ってきますから、それをどうやって自分の中で理解をして新しいものをつくっていくかが問われてくると思います。

これからの日本というのは、日本は資源がありませんから、やはり教育で新しいものをつくっていく、考えていく時代で、そのための応援なり支援をしていきたい。具体的にはどうかというと、まだそこまでは教育の専門ではありませんので、そういう環境づくりを先駆けてやっていきたいと思いま

す。

○井上教育長 ほかにございますか。

○齊藤委員 先ほど、市長の目標1の中で、学校教育の中でのICT導入ということで、その言葉の中で、導入して学力とかコンピューターにお任せするのですけれども、健康に関しても少し考えているといったお言葉があったと思うのですけれども、それについて、もう少し具体的に何かわかることがあれば。

○井上教育長 教育委員会議で、ICTフォーラムで渋谷区の上原小学校の実際の授業を私が見たと話したのですけれども、実はそのときに市長も一緒に行って、もう現場は見ていただいているので、その辺の感想も含めてお話ししていただけますか。

○笠井市長 現場を見てきました。子どもたちが1人1台、1年生から6年生までタブレットを持って、それに合った授業をやっています。先生は、そのタブレットに出た画面で授業をやっています。ただし、健康被害がやっぱりありますので、そこは時間を決めてやっていくと。子どもたちの健康被害にならないような時間設定、学年に合った時間設定をしていますので、当然、市としましても、子どもたち1年生に朝から晩までタブレットを見ていいかということ、そうではないですから、その辺のきちんとした科学的な根拠を持ちながら、ガイドラインをつくっていきたいと思います。それを教育委員会にもお願いしたいと思います。

以上です。

○齊藤委員 ありがとうございます。最近では、やはりスマホとか、大人もそうなのですけれども、スマホ老眼というような言葉にもあるように、子どもにそういうものを導入してすごくいいとは思いますが、やはりそういった目の被害とかが心配です。例えば、それにはブルーライトをカットするようなものを当然やるとは思いますが、そういったものを導入していただければと思います。

○笠井市長 ありがとうございます。まさしくそのとおりで、学年に合ったある程度制限なりを決めていかないと健康被害が出ると思います。それと、自分の中で危惧しているのは、全て、自分で調べて自分で工夫する授業がいいかということだけではないですよ。社会に出れば、こうやって人間同士で、話をみんなで持ち寄って知恵を出し合う、そういうものがないと、単に機械だけで調べてそれで終わりとは言えませんので、その辺も、本来持っている人間のコミュニケーション能力を高めるようなツールとして使えるようにお願いをしていきたいなと思います。

○井上教育長 ありがとうございます。

ほか、ありますでしょうか。目標1にとどまらず、ほかのことでも結構です。

○高倉委員 目標1にあります「多様な教育活動」というところでお伺いしたいと思います。

市長も実感としてお持ちのとおり、外国の方も増えていますし、学校現場でもそういった日本語支援ですとか進めているところと聞いています。

また一方では、昨今、LGBTといった性的ないろいろな問題を小中学校のころから実はあるのだということが結構明らかになっているという中で、そういった画一的な対応が難しくなっているという現代だと思っています。そういった中で、非常に大雑把な質問で恐縮なのですが、教育における多様性について、市長のお考えを聞きたいと思います。よろしく申し上げます。

○笠井市長 ありがとうございます。

○井上教育長 市長、どうぞ。

○笠井市長 おっしゃるとおりだと思います。近年、外国人が増えています。当市においても、外国系の方が生徒として入ってきておりますので、そういう中で行政というのは重要なキーワードだと思います。いろいろな考えを持った子どもたち、いろいろな環境に置かれている子どもたちがいますので、そこは人権をきちんと尊重しなければいけないと思っています。その中で、その子に合ったそれぞれの対応というのは考えていく必要があるだろうと。例えば、制服についても選択できるような方向というのが、恐らくこれからは出てくるのではないかと思います。

ですから、そういうことも含めて、子どもたちが学校の中で楽しく学習できる環境づくりは教育委員会と一緒に考えていきたいと思っています。

以上です。

○井上教育長 ありがとうございます。高倉委員は、ご自分でもそういうような講演とかお話を聞きに行かれたということをお聞きしているのですけれども、高倉委員はそういうお話を聞いた中から、小中学校の教育につなげていくような、また社会教育につなげていくようなことというのは、お考え等がありましたら。

○高倉委員 ありがとうございます。今、市長がおっしゃったとおり、制服について選んでいくというのは、お隣の柏市では既に新しい中学校で、新しい制服をつくる時にそういう対応ができるようになるということがありますし、あと実際、制服も自分の性別で選ぶというよりは、単純にスラックスのほうが好きな女子だっているというところで、選択肢が増えていけば今後いいなと思っています。

だから、よくいわれる、私、いわゆる男女共同参画というところでもちょっと関心があるのですけれども、多様性という中で、性差とか、あるべきというのに縛られない選択を子どもたちができるように大人がしていくと。制服といったハード面もそうなのですが、あとは教員、それから保護者が柔軟になっていく必要もあると思います。もう一つとしては、研修といいますか、教職員のほうでもそういった意識を持っていただけたらなと思っています。

○笠井市長 ありがとうございます。

今回、東京オリンピック・パラリンピックがあって、テレビを見ていたら、このLGBT対応のブースをつくって、そこでその人たちを受け入れるというのが、東京の銀座あたりなのですけれどもあったので、これから恐らく東京オリンピック・パラリンピックを契機に、この問題ももっと日本でも認知される、話し合う機会だと思います。そういうことも踏まえながら、白井に合った対応をしていきたいと思っています。

○井上教育長 ありがとうございます。ほかにいかがですか。

○小林委員 L G B Tのこともそうですけれども、白井もいろいろな国の人が入ってきていると思うのですけれども、ここでまたブルキナファソとかその関係でも、フランスもですかね。そのお子さんたちの言語の問題が、それがやっぱり解決しないと、ただ学校に行っても何もわからないということだと思うのですけれども、私のちょっと関係している人でスリランカの人も見たりしますけれども、いろいろな国の人に来て、それぞれに語学的に対応する補助教育も必要になってくると思うのですけれども、その辺のところ、予算のこともあると思うのですけれども、どうなのでしょう。

○笠井市長 今現在、委員がおっしゃったように、日本語指導補助教員というのも配置しています。

ただ、これはいろいろな人たちに対応できるかという点、今、委員おっしゃったように、そうではないかもしれない。ですから、これからどういう人たちが入ってくる。ただ補助教員だけではなくて、白井市には国際交流協会というのがありまして、その中にはいろいろな国の人たちがいますし、日本語をある程度理解していますので、そういう人たちに協力を求めることも、私はこれからのオール白井の一環と思っています。

以上です。

○井上教育長 事務局にも振ってみたいと思いますけれども、その辺の外国人の小学校・中学校への補助というのですか。数字とかは今ないので、覚えている範囲で結構ですけれども。あと、ボランティアの方でも積極的に助けてくださっている人もいるのではないかと思いますけれども、お話しできる範囲でどうですか。

○小泉教育部長 今年度の人数でいきますと、外国籍、外国人の子どもが17名と記憶しております。

シンハラ語とか中国語も含めて、もろもろの言語の場合があるのですけれども、今、市長からお話がありましたように、例えばそういった特別な言語については、その近隣に住んで、一緒に住んでいる方を、直接その方を日本語指導で雇用させていただいて、一緒にお手伝いいただくとかということも今まではございました。

また、指導員は、5名、常につけていくようにしますので、週で大体60時間ぐらいは補助できているかなど。なかなか学習面のフォローまでということになると、やっぱり多い時間があつたほうがいいと思いますので、配置はしていきたいと考えております。

よろしいでしょうか。

○井上教育長 ありがとうございます。

ほかに、ありますでしょうか。

全部通してで構わないですよ。

○川嶋委員 目標2のところなのですけれども、「家庭教育について」です。

私はやはり保護者、現役保護者でもありますので、やっぱりここは一番自分の関心どころなのですから、家庭教育はすごく重要だなって。私も個人的にすごく周りのお母さんたちにも押しているところなのですけれども、やはり皆さん基本的に働いているお母さんが多いということもありまして、まず基本的に、学校内でも、お母さんたちがコミュニティー不足みたいなところもありまして、そういういい企画があつたとしても、基本的に自分事として捉えないという保護者がすごく増えているのです。それが今の現状かなど私は感じているのですけれども、市長の考える家庭教育の思いや考えとか、これからやろうとしている施策みたいなものがありましたら、お伺いしたいと思います。

○笠井市長 お答えいたします。まず、一番最初に言いましたとおり、家庭教育をしっかりと、それが教育の出発点と考えていますので、やっぱり家庭教育の中で礼儀とかマナーとか、あとは協調性、思いやりとか、そういうものをしっかりと家庭教育の中で学んでいただきたいと思っています。

ただし、おっしゃったように、なかなか今、親が忙しくて、そういう面倒を見られないというのがあり、その中で、親たち保護者たちの意識をどう変えていくか。確かに自分が忙しくて子どもの面倒見られなく、少しでも時間を割いてでも子どもたちに接する時間を持ってもらう、こういうことは大事だと思います。

その中で親御さんの意識改革、さっき研修にもなかなか参加できないとありましたが、どうしたら研修に参加できるのか。あとはSNSとかありますから、そういうものを使いながら情報を出していく、小出しにしていく、何か機会があれば相談に乗れる、そういう環境づくりをできればつくっていきたいと思います。

やはり子どもを育てるということは親に責任がありますので、そのことを十分意識をしていただきながら、そのための支援、行政として学校として何ができるかをその当事者を含めて考えていきたいと思います。

以上です。

○井上教育長 よろしいですか。

○川嶋委員 ありがとうございます。

○井上教育長 先日の、私と教育委員で千葉県の研修に行ったときに、発達障害があるお子さんの就学前の指導をされている団体の代表の方のお話で、私もつくづく思ったのは、3歳児までは母子手帳に基づいて行政のいろいろな支援がある。6歳からは小学校に入学するので支援がある。この4歳から5歳、ここになかなかいろいろな支援が入りづらいところがあるので、民間でそういう団体を立ち上げてやっているというようなお話で。私も、ああとは思ったのですけれども、これは鈴木参事とお話ししたときに、ここを白井市はよくやられているというようなこととお話しされていたので、その辺のところをお話ししていただけますか。

○鈴木教育部参事 教育長と研修後に話を聞かせていただきましたが、白井市ではこども発達センターがすごく充実していることを白井に来てから感じております。検診のときに、おやっと思うケースについては、ぜひ、このこども発達センターに相談に行ってくださいということで声をかける。そして、こども発達センターでそれを聞く。また、その後も継続して、小学校、今のところは入るまで。あと、契約が続いている子は、小学校に入っても1カ月に1回とか、数カ月に1回という形で相談体制があるということで、また、それをつないでいくライフサポートファイルというものも白井市にはありますので、その点、充実しているなという話をさせていただきました。

○井上教育長 ありがとうございます。鈴木参事は長く特別支援教育に携わっていて、他市の情報とかもよく知っている方なので、他市と比べてもやっぱりその辺は、すぐれているのではないかというお話だった。どうですか、他市と。

○鈴木参事 白井市と他市を比べたときに、こども発達センターのように充実したセンターというのがなかなかなくて、言葉の教室のみだとか、重度の子どもについてはとかというところではあるのだけれども、軽度といいますか、発達障害の子どもたちについてのケア及びサポートをしてくれるという部分では非常に高いと思います。

○井上教育長 そういう話を私も聞いたものでしたから、紹介をしてもらいました。

○笠井市長 自分も去年、家庭教育講座か何かのペップトークを聞きに行ったのですけれども、非常にいいですね。今までは、指導者というのは、悪いところを直すためにいろいろやってきたのですけれども、あれは発想が逆なのです。伸ばすところをほめながら問題提起してくれる。ああいうことを家庭教育講座でも、保護者向けにどんどんやってもらえたらいいなと思います。今の子どもはあんまりガンガン言うと委縮しますよね。それよりも、個性を伸ばしてほめてあげたり、そうしたほうがいいと感じました。

以上です。

○井上教育長 ありがとうございます。

それではほかに、この目標 1、2、3、4 全部通して構いませんけれども、ありましたらお願いします。

○小林委員 私がちょっと心配しているのは、働き方改革といわれているのですが、最近は学校が地域と連携するという。そうしますと土日に行事が、そこに管理職の方がいつも顔を出している。そうすると、実際は働き方改革で一般教員は時間を減らせているのですが、管理職の方の働き方が実際これからどうなるのか、例えば学童みたいに完全に、場所だけ提供して分かれちゃうとか、そんなふうになれるのかどうかというところをちょっと心配しているのですが。

○笠井市長 おっしゃるとおり、新しい地域コミュニティの仕組みということで、まちづくり協議会という組織を今つくっています。今は、大山口小学校と三小、この大山口小学校にも校長先生が、毎回毎回会合に来ていまして、その地域の方と議論をしています。ですから、委員さんが心配するように、こうしてずっと市民と議論の場に出るのかと思うのですが、それは職員も同じで、今ちょうど立ち上げている段階ですので、職員も管理職もそこに出ていって議論します。

私は、つくるまでは、そうやって地域の人たちと議論をしますけれども、でき上がった後は、これは主体は地域になりますので、地域の方が自分たちで課題解決に向けて、そして行政とか学校の中に協力を仰ぐような関係になってくれば、負担は今よりも減ってくると思います。ただ、つくるまでは、当然いろいろな情報交換、信頼関係をつくるための負担はどうしても仕方がないのでけれども、この辺の今後できた後に、学校の問題を例えば地域で扱うかもしれません。

例えば地域の安全対策なんかは、自分たち地域連携でやっていきますよと、そうなってくれば学校にも決してマイナスの面だけではないと思います。ですから、そういうプラスの面の作用を描きながら今つくっていて、今後はつくった段階、できましたら、なるべく先生方、職員の負担を減らしていきたいと思います。役割分担の話だと思いますが、その辺は考えていきたいと思います。

以上です。

○小林委員 そうは言うのですが、実際はその地域の方が、話し合いの場に学校の代表が出てきてほしいというのがありますし、逆に市の行事なんかもそうですけれども、市役所の人が全然来ていないじゃないとか、学校の先生が誰も来ていないじゃないとか。連携なのに、そういうような状況になった場合に、学校の先生は大変だな、市役所の人も大変だなという、そういう理解がまだ市民にできていないのじゃないかと思います。

○笠井市長 言っていることは理解できます。やはりまだまだ行政任せ、学校任せの傾向が高いのは事実です。でも、これから自分が標榜しているのは、自治ですよ。自分たちの地域は自分たちで考えて行動して、高めていくのですよということを訴えていきます。行政がやる役割、学校の役割というのはこういうものですよということのある程度明確にしながら、地域住民にも活動なり頑張りたいと思っています。これが私は本来の自治だと思っておりまして、その辺はこれから同じように訴えていきたいと思っています。

以上です。

○井上教育長 実際に学校で校長をやられていた、お二人がいますけれども、立場からはいかがですか。地域との連携等を密にすることは必要だけれども、土日とかの負担等にはならないかというよう

なご意見ですけれども、どうですか。

○鈴木教育部参事 確かに毎週毎週とかというふうになると、当然、負担感はあると思うのですけれども、決してそういうことではなく、土日でない地域の方々もなかなか会えない部分もありますので、私個人としては、校長をやっているときにそういったところに行くというのは、さまざまなコミュニケーションがとれる、学校に対しても協力していただけるというところで、そんなに負担感私は感じなかったです。

○小泉教育部長 校長をやっていたときから職員に話していたのは、教員は長くても五、六年、学校にということだけれども、子どもたちはこの地域の中でずっと生きていく子どもたちが多いということを見ると、やっぱり地域の方にかわいがられる人となる、ということは大事だという話をよくしていました。

今、いろいろ家庭や地域のことを背景にして、学校が請け負っている部分が大変多いので、そういった苦勞についても、言えない部分もあるのですけれども、できるだけ学校の状況というのは知ってもらいたいという気持ちもあります。

先ほど市長からお話がありましたように、お互いに交流することによって、学校にもいいことがあるということを期待してやっていけたらと思います。ただ、やっぱり休みは欲しいです。

○笠井市長 ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。今、住民参加ということで、数多くの市民との意見交換、毎週毎週いろいろな計画、いろいろな場でやっていまして、その中では職員の出勤回数が増えていますが、でも今、部長が言ったように、これからこうやって市民と議論したことが、必ず良い地域づくり、まちづくりに反映できると思いますので、その後は行政の役割というのが明確になってきて、むしろ役割分担ができて、負担感が少なくなることを期待しています。

○井上教育長 ありがとうございます。この件に関して、私からですけれども、国が、今まさに話題になっている地域と一体型、学校と地域が一体となるコミュニティ・スクールというのを数年前から推進しているのですけれども、そのコミュニティ・スクールの中心となる学校運営委員会が人事にも意見を言えるという、一番最初に国がそういう組織づけをしたものですから、一斉に各市町村、教育委員会は、ノーと言ったのですね。

なので、3年前ぐらいですか。それはもうなしですよということで、規則も変えて、コミュニティ・スクールをぜひ推進してくださいというようなのはもう来ているのですけれども。最初のそのことがあって、なかなか進みは遅いのですが。やっぱり今のようなことは大事なことなので、私としては、このコミュニティ・スクールということについては研究していかなきゃいけないなどは考えています。

ほかにございますか。

○齊藤委員 通学路の整備ということで、最近は国道の464号線がすごい大渋滞をするという状況になっています。その中で迂回路として、本来であれば北環状線の整備がしっかりできていれば、そこへ流れていくのかなと思うのですが、そこもなかなか今できていない状況の中で、さらに白井市の子どもたちが登下校する通学路にも、そういった渋滞の車が押し寄せているというところで、市として今後、北環状線は市の管轄ではなくなると思うのですけれども、市としてどんな方向性があるのかということ、あとはニュータウン地区を除き、やはり白井中学区、桜台中学区の一部、二小とか、あとベリーフィールドの先のほうとか、暗い、街灯がまだ少ない地域とかもあるもので、その辺も今

後そういった整備もどうなのかなと、市長にお伺いしたいと思います。

○笠井市長 ありがとうございます。児童・生徒の安全について、さらなる通学路の整備が望ましい地区があるということは承知をしています。自分も田舎の地区ですので、今委員がおっしゃたように暗いところ、危ないところ、狭いところが多くあります。これについても、通学路の安全確保については毎年、PTAの方が中心になって、市と合同で点検をして改善などを要望して、少しずつ予算の範囲の中で、市がやれるものと警察にお願いするものといろいろなものを連携しながら進めているところでもあります。

あとは、確かに旧地区のほうは、まだ暗い箇所があります。それは知っていますので、そこも限られた予算ですけれども、順次要望に応えるように頑張っていきたいと思います。

今年から、電気の白熱灯からLEDにかかります。令和2年度から5年かけてLEDにかえる取り組み事業をやります。これが明るくなるかどうかはこれからなのですが、何がいいかというと、やっぱりLEDというのは電氣量が少ないですから、普通の白熱灯と違って電氣料金が安くなります。その部分を今言った街路灯の増設に、もしできればそういうものにも活用できればと思います。電氣量で試算すると、大体2,000万ぐらい違うらしいですね、白熱灯とは電氣料金が。ですから、お金がその部分、少しは浮きますから、そういう部分で違った事業に対応できますので、それも進めていきたいと思います。

○井上教育長 ありがとうございます。

○齊藤委員 ありがとうございます。多分、目標の3になると思うのですが、私も8年ほど防犯指導員をやっていたので、やはりその中で長期休業とか学校の終業式のときには、パトロールとして通学路を見守っていた経緯がありました。やはり白熱灯ですと寿命がすごく短いもので、切れるのです。そうすると、そこがすごく暗くて、中学生が帰るのには暗いと。今、市長がおっしゃったとおり、LED化になっていると、電氣料金も安いし、切れないです。寿命も長い。ただ、設置するときには少しお金がかかるのですが、最初の投資で長く使えるというのはすごくいいと思いますので、どんどん進めて欲しいと思います。

○笠井市長 ありがとうございます。今までは白熱灯の管理を各自治会にお願いしていたのですよね。自治会に電気の球が壊れています等々あったのですが、これからは市で一括管理をしていきます。LEDをリースでやりますので、今までの対応とは違うと思います。管理も一体的な管理ができます。そういう面では迅速に市民からの声に応えられると思います。地球温暖化にもいいですね。

○井上教育長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

○小林委員 子どもたちが意見交換会にも参加していただくということで、やはり子どもの発想というのが単純で、なくなってしまったお店があればもっとよかったのにとか、身近に買いに行ける、集まれる、そして勉強もできる、何か学べる、そういうような拠点というか買い物場所、この近所にまたできると思うのですが、白井には大学とか若い人が学ぶ場が少ないと思うのですが、その辺についてはどうお考えですか。

○笠井市長 今、市で社会教育施設というと、文化センターとか各公民館、青少年女性センターがあります。そういう中で、児童館もありますが、そういうものをもっと活用していけたら。それから、これから恐らく空き家というものも増えてくると考えられますので、そういうものもいろいろな場面

場面で活用して、そこにも人材が、人がいますから、地域の方でそういう活動をしてみたいという方もミックスしながらできるかと思います。

自分は、6年生を対象に社会科の特別授業をやっています。今、全部の学校が終わったのですけれども、各学校回ってみると、6年生に、この市に何かつくってほしいものはあるかという、一番多かったのは本屋です。駅前に本屋がないので本屋をつくってほしいという声がありました。あとは、地区によっていろいろですけれども。コンビニがなくなったから、次に何かつくってほしいとかそういうことです。

ただ、何かしてほしいだけではなくて、この白井の特色というか、何か気に入ったところがあるかという、やっぱりいろいろな意見が、緑があるとか、梨がおいしいとか、あとは遊ぶ空間があるとか。ですから、こういうものも含めて子どもたちの意見を聞き、確認しながら、子どもたちに合った教育の場というものも考えていきたいと思っています。ですから、これからも子どもたちにいろいろな意見、考えを聞いて、実現できることは実現させていきたいと思っています。その結果、子どもたちがずっとこの白井に住んでもらって、家庭を持って暮らしてもらいたいようなまちづくりをやっていきたいと思っています。

以上です。

○井上教育長 それでは、ほかにいかがですか。

○川嶋委員 今の市長の話なのですけれども、やっぱり子どもの意見というのはすごく貴重なのではないかなと思っています。一番最初に、意見交換会をたくさん開いているということで、そこに中学生、高校生も招致したのですかね。お声をかけて集まっていたというところだったと思うのですけれども、やっぱりそういうのはすごく大事だなと思うので、ぜひ続けてもらいたい反面、でも、そこにきつと職員も同行したことでしょうから、職員の負担というのもちょっと気になるところでもあるのですけれども。

確かに、うちの息子が、市長の出前授業、出前と言っているのでしょうか、授業を受けたのですけれども、家庭で土日をかけて市長への質問を考えましょうという宿題が出まして、結構親子で真剣に考えたという機会がありました。採用されなかったのですけれども、残念で、すごく頑張ったのですけれども。だから、やっぱりそういうのって、それは全部の小学校で行われたことだと思います。それは、親、保護者も自分事として、親子で真剣に、そこで市長さんにこういう質問してみようねって、それは家庭教育だと思います。すごくいい機会だったと思うので、笠井市長もこういう授業をやってくださってありがたいと感じました。

できればですけれども、私個人的には、市長が子どもたちに何を話したのだろうと、ものすごく気になってしまって、学校のホームページもチェックしたのですけれども、余り私の期待する、内容は小っちゃいので出ていなくて、参観形式にはできないのかなとか、やっぱりそういうところに保護者が行くというの、関心を高めるためにも、すごくいいことなのかなと。またそれが白井市の教育の良さだったりもするので、そこがPRどころだなと思ったので、参観型みたいなことを考えてくださるとうれしいなという要望です。

○笠井市長 自分は、住民参加というものをずっとやらせていただきましたので、住民参加には一部の人の参加ではなくて、やはりこのまちに住んでいる方、当然、子どもたち、あと障害を持つ方、あと高齢者、いろいろな人たちに参加する機会というのを持っていきたいと思っています。

その中で、社会科の教育授業をやって子どもたちの意見を聞くと、非常に参考になるような、おもしろいなという意見もありますので、ですから今後、また教育委員会と相談しながら、子どもたちの意見を聞く機会というのを考えていきたいと思います。

以上です。

○井上教育長 ありがとうございます。ちょっとハードルが上がりました。市長の授業をみんなに。今回はもう終わったのですよね。

○笠井市長 終わりました。

○井上教育長 では、来年に向けて協議していきたいなど。

○笠井市長 今言ったように、一方では、職員に過度な負担、これ以上いろいろな負担はできませんから、自分とか少数の人間で、意見聴取ができるようなことを考えていきたいと。

○井上教育長 僕が思うに、ファンが多くて入り切れないのじゃないかと、教室には。

○笠井市長 サイン頂戴とかいましたよ。芸能人ではないから、サインはできませんって。

○井上教育長 ありがとうございます。

それでは、この大綱についてでも結構なのですけれども、その他、この際、市長さんに幾つか質問、意見交換等がありましたら、それも含めてお話ししていただいて結構なのですけれども、いかがですか。

大体、考えてこられた質問、意見はおっしゃられましたかね。

僕が市長に聞きたいのですけれども。市長も小さいころからずっと野球とかやられているのですけれども、今の現代の子どもたちのいいところ、昔に比べてということでもないのですけれども、現代の子どもたちのここがすばらしいとか、ここが良いというところが、感じていることがあったら聞きたいのですけれども。

○笠井市長 自分のやっていた競技の中でいきますと、今の子どもたちは知識が豊富ですよ。いろいろな情報が入っているから、その中で知識として知っている。でも、スポーツで一番大事なことは、反復練習なのです。細かい基礎練習を一生懸命やって、そしてそれを能力に生かす。ですから、自分の中では、今スポーツを通して思っているのは、もう一度基礎から、いろいろな家庭教育が基礎になりますけれども、そういうものをやったりしていく必要があるのではないかなど。余りにも情報がいっぱいあるから、それを選択して自分で考える力をもう一度原点に戻って、基礎をもう一度やっていくことが大事ではないかなと思います。

少年野球の監督さんたちと話をすると、今の子どもたちはすぐゲームに入ってしまう。でも、ゲームをやるためには、自分たちのときにはキャッチボールの仕方、走り方、ボールのとり方、打ち方、これを何度も何度も練習をして試合、実戦に生かすのですけれども、今の子どもたちはそれができない、嫌いだ。すぐ自分で見た情報なり、をやってしまう。私は、これは違うのではないかなど。何でも基礎があって、それを生かさなければ、いろいろな面で対応できないと思っています。古い人間ですかね。

○井上教育長 いいところはないですか。今の子どものいいところ。

○笠井市長 今の子どものほうが能力は高いと思いますよ。

○井上教育長 能力。

○笠井市長 はい。知識、知能は高いと思います。自分の子どもにもいろいろと小さいときですが、

話をする、自分よりも知っていることはいっぱいありますから。何か言うと、こうだよって言われていますので。そういう面では、本当に情報というのはいっぱい入っていて、そういう能力は高いと思います。

○井上教育長 運動能力も高くなっているのではないですかね。世界記録は必ず伸びてきますから。

○笠井市長 おっしゃるとおりで、昔よりも今のほうが、全てのスポーツにおいて能力が高くなっています。ただ、この間の体力測定の結果を見ると、走るのが昔よりも劣っていると言っていますが、競技を見てみれば、100メートルだって今のほうが早いわけですよね。ですから、差があるのかなと。一般の人たちとスポーツで一流になっている人たちの差が今度は大きくなっているのかなと感じます。

○井上教育長 ありがとうございます。

それでは、そろそろというお時間なのですけれども、何かありましたら、どうぞ。よろしいですか。

○笠井市長 本当に今日はありがとうございました。子どもたちの先生との関係をやっぱりよくしていくというのが素直な気持ちです。教育現場については、政治家がいちいち口を出す話ではありませんので、そこはもう教員に全部お任せして。ただ、子どもたちが勉強ができる環境だったり、先生が働きやすい環境というのは、これからも市長としてやっていきたいと思えます。

そのためには、皆さんのような委員さんたちにいろいろな意見、助言をいただきながら、それは進めていかなければ、それ程に知識豊富ではありませんから、今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。

○井上教育長 ありがとうございます。

それでは、事務局から何かありますでしょうか。

○板橋教育総務課長 今後のスケジュールについて、簡単にお知らせだけしたいと思えます。

教育大綱及び教育振興計画のスケジュールをごらんいただきたいと思えます。

本日は、主に教育大綱についてのスケジュールを説明させていただきます。

教育大綱につきましては、先ほど何度か出ていますけれども、市長が策定するもので、教育委員さんと意見交換をしながらということなんです。

ただ、教育委員会では、あわせて教育振興基本計画を策定していて、なかなか委員さんに示すことができないのですけれども、春には素案を示したいと思っております。

この大綱があって教育振興計画なのですけれども、教育振興計画につきましては、今後各課の附属機関ですとか、いろいろところで意見を聞いていきます。もちろん大綱をもとにつくっていくものなのですけれども、そこで市民の委員さんからもいろいろな意見が出た中で、仮に大綱に影響するような意見もあろうかと、出てくる場合もありますので、そういう場合には、本日の会議の意見も踏まえて、6月ぐらいにもう一回、令和2年度の第1回総合教育会議を開いていただいて、修正の必要があったり確認したいことがあれば、また皆さんと意見交換しながらつくっていきたくと思えます。

その後、それを反映させたものを8月ぐらいにパブリックコメントを行いまして、その結果をもとに、その報告がてら第2回総合教育会議を10月ぐらいに行い、教育大綱を来年の12月ぐらいに、市長の決裁をいただきまして決定していきたく。1月の教育委員会議にはその報告をしていきたくと考えております。

あわせまして、教育振興基本計画のスケジュールは記載のとおりなのですが、こちらは教育委員会議で決定していくものですので、大綱の進捗状況と後期の基本計画の進捗状況を見ながら、10月ぐらいにパブリックコメントを行えるよう教育委員会議に諮りまして、その結果をもってパブリックコメントを行い、その後パブリックコメントの結果をもって1月ぐらいの教育委員会議でまた協議をさせていただいて、来年度3月の教育委員会議で決定したいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

説明は以上です。

○井上教育長 ありがとうございます。

ほかにごありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○井上教育長 それでは、これで会議は終了したいと思います。最後は笠井市長にお戻しいたします。よろしくお願い致します。

○笠井市長 皆さん、どうもありがとうございました。今後も皆さんといろいろな議論をしながら、子どもたちにとって、先生にとって、よりよい環境づくりを進めていきますので、今後ともまたいろいろな意見等いただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

以上です。

○井上教育長 今日はどうもありがとうございました。

○事務局 それでは、本日は長時間にわたり貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして、平成31年度第2回白井市総合教育会議を終了いたします。お疲れさまでした。

午後5時08分閉会